

## 2. 「類型化」から見た参考となるポイント

事例は以下の7つに類型化し、山梨におけるICT利活用についてどのように参考となるかを整理しました。

### ① 地域参加型

地域住民がブログやSNSなどに参加することで、相互に情報提供や情報交換が行われるタイプ。それにより、地域住民間の新たな交流の促進や地域における情報伝達のための新たなメディアが形成されます。

### ② 情報収集・発信型

運営主体が自ら地域情報を発掘・取材し、それを地域内外に向けた情報として発信するタイプ。それにより、地域の情報発信力が強化されます。

### ③ テーマ参加型

特定のテーマに関心を持つ地域内外の人々を対象とした情報発信や情報交換の場を設けるタイプ。それにより、テーマを核とした新たなコミュニティが形成されます。

### ④ バーチャル・リアル連携型

道の駅などの地域内の施設（リアル）とWEB上での情報発信（バーチャル）が相互に連携することにより、効果的な情報発信を行うタイプ。それにより、主に地域外からの集客力が強化されます。

### ⑤ ニーズ・シーズマッチング型

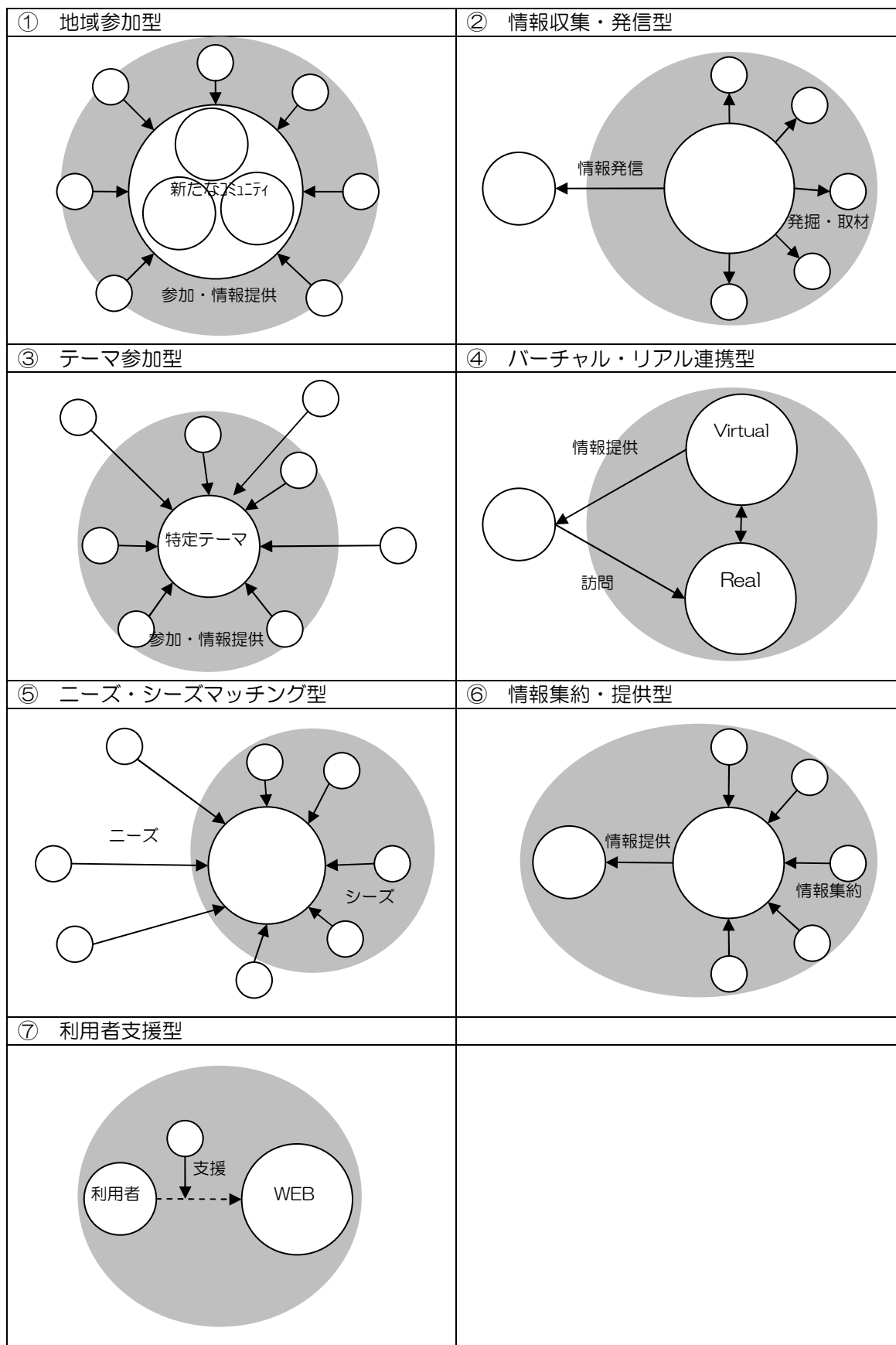
今日の多様なビジネス・ニーズに対して、地場産業のシーズを活用するためのマッチングを行うタイプ。それにより、地場産業の技術の新たな活用機会の創出が図られます。

### ⑥ 情報集約・提供型

これまで分散していた情報をひとつのWEBサイトに集約し、まとめて情報提供を行うタイプ。それにより、情報収集における利便性の向上や業務の効率化が図られます。

### ⑦ 利用者支援型

これまでWEB環境の利用が困難であった地域や住民に対して、利用促進に向けた支援を行うタイプ。それにより、多様な情報収集や新たなコミュニティへの参加機会の可能性が広がります。



※網がけは、各事業の実施地域を示す。

図 1 類型化の整理